様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｈ００６８５

研究課題名（和文）CEFR-Jに準拠した入学から卒業までの英語スピーキング能力の指導・評価システム

研究課題名（英文）Developing an Assessment System of Speaking Skills in English as a Foregin Language Based on CEFR-J

研究代表者
吉冨　朝子（YOSHITOMI, ASAKO）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：４０２７２６１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　16,130,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、大学における英語スピーキング能力の育成を目指して、入学から卒業までの長期にわたり、CEFR-Jに準拠した体系的な指導と多面的な評価の一体化を実現するシステムを構築することを目的とした。具体的には、入学時の診断的評価として利用可能な個別試験のスピーキングテスト、および学習支援の指導過程における形成的評価のための、CEFR-Jに基づいたスピーキングタスクを開発し、評価体制および学習支援内容の構造化を行った。それぞれの評価の結果を指導に活かすことを通して、一貫した到達度指標に準拠した評価を指導につなげることを試みるとともに、学習成果をeポートフォリオの形で可視化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、英語のスピーキング能力の育成基盤の構築に向けて、妥当性の高い診断的・形成的評価を、指導と一体化させた点にある。個別試験に利用可能なスピーキングテストを開発するために体系的なトライアル実験と多面的な検証を行い、CEFRに紐づけされた語彙レベルも考慮して開発されたスピーキングタスクを形成的評価のために活用した取り組みは、国内に先例が少ない。独自に開発したスピーキングテストは、他大学の入学試験にも活用され、その社会的意義も大きい。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the present study was to create a language teaching and assessment system based on CEFR-J, with a focus on improving the English speaking skills of university level students, from admission to graduation. We have developed a speaking test of English as a foreign language for admissions purpose as well as speaking tasks for teaching and formative assessment. The attempt was to create a pedagogical cycle of evaluating the students' speaking skills upon entrance to the university, teaching speaking skills through tasks based on CEFR-J, and repeating formative assessment as the students make progress. The students' language profiles have also been visualized in the form of an e-Porforlio.

研究分野：第二言語習得、英語教育学

キーワード：英語スピーキング力能力　CEFR-J　指導・評価システム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

グローバル化の加速に伴い、英語教育の場においてスピーキング能力の育成が重要視される中、大学英語教育ではスピーキング技能の指導に重きをおく傾向が高まってはいるものの、スピーキング能力の評価方法は確立されておらず、指導と評価の一体化が実現されていない。加えて、欧州言語共通参照枠（CEFR: Common European Framework of Reference for Languages）に基づいて開発された日本人学習者のための英語到達度指標（CEFR-J）は大学英語教育では十分に活用されておらず、指導・学習の成果が把握しにくいという課題がある。

このような状況のもと、入学時の診断的評価を始点とし、授業とそれを補完する学習支援という多面的な指導と、その過程における形成的評価および学年段階ごとの総括的評価を指導に活かす循環サイクルの構築が必要だと考えた。同時に、これらの評価方法から得た情報を e ポートフォリオに記載することにより学習成果の可視化を促すという、入学から卒業までの長期にわたる一貫した育成システムの基盤づくりが必要であると考えた。

２．研究の目的

上述のスピーキング能力の育成基盤の構築を目指して、本研究は、入学時の診断的評価に利用可能な CEFR-J に準拠したスピーキングテスト、 英語学習支援内容を構造化するために必要なスピーキングタスク、 および学習支援における形成的評価の 3 点を開発し、これらの評価結果を記録する e ポートフォリオシステムを導入することを目的とした。研究において構築を目指したシステムの全容を図１に示す。

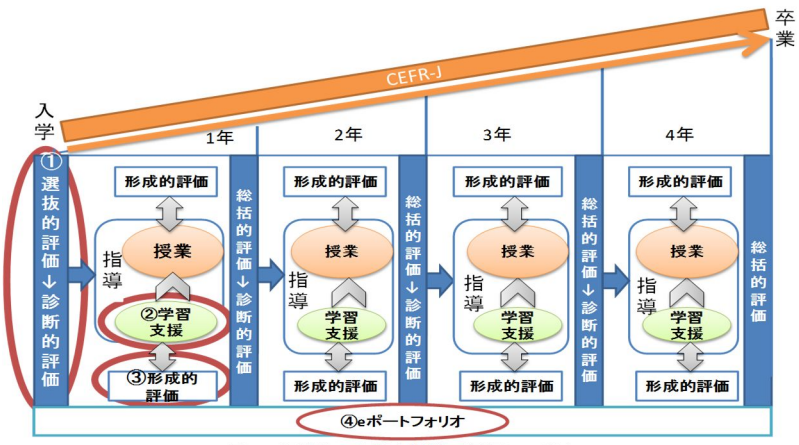

図1: 本研究で目指す指導・評価システム

３．研究の方法

本研究は、吉冨朝子が研究全体を統括し、3 つの研究班が連携をとりつつ実施した。第 1 班では、研究分担者の根岸雅史と周育佳が個別試験に利用できるスピーキングテストを British Council と連携して共同開発した。第 2 班は、研究分担者の投野由紀夫・金子麻子（2018-2019

年度）・王ウェイトン（2020-2021 年度）が、CEFR-J に基づく学習支援用タスクを開発し、学習支援の構造化を行った。第 3 班は、研究分担者長沼君主と周育佳が学習支援における形成的評価手法を開発し、研究協力者の梅野毅とともに、個別試験のテスト結果と形成的評価を記録する e ポートフォリオシステムの開発を試みた。

(1) 個別試験のためのスピーキングテストの開発（第 1 班）

2018 年度は、テストの目的、測定する能力、タスク形式、採点基準、実施・採点手順等を含むテストスペックを策定し、スペックに基づくトライアルテストを作成した。オンラインシステムに実装したトライアルテストを大学生学習者 90 名と高校生 30 名に実施し、タスクが引き出すべき言語機能を引き出しているか、難易度は予測と一致するか等を検証した。

2019 年度は、開発したスピーキングテストについて、(1)テストを受けて入学した大学生の意見を収集し検証を行い、（2）高校生の感想を基にテスト・モード（コンピュータ対 iPad）の違いを比較し、(3）受験者の自己報告によって、タスク遂行における準備時間の有効性を調べた。また、ディスカッションにおける方略トレーニングの有効性を検証するために実験を行った。

2020 年度と 2021 年度は、新たに作成したトライアルテスト及びアンケートを 50 名に実施し、採点者間信頼性と受験者のテストに対する意見を収集した。また、改訂版トライアルテストと他の試験の結果の関連性を調べる調査を開始した。

(2) 英語学習支援センター（ELC）におけるスピーキングタスクの開発（第 2 班）

2018 年度は、ELC が提供する学習支援プログラムの一つであるスピーキングセッションにおいて利用可能なタスクを開発した。トライアルテストの結果および文献調査を踏まえて、ディスカッションに適したタスクタイプを洗い出し、タイプごとに学習者の興味に応じたトピックを基にタスクを考案した。考案したタスクを、スピーキングセッションで活用できる形へと落とし込み、その利用を開始した。実施後は、新形式のタスクに関し、学生や英語アドバイザーからフィードバックを得た。加えて、CEFR-J に準拠した教材・テストを 27 言語において開発するプロジェクト（研究代表者は本科研の研究分担者である投野由紀夫）と連携して、e-learning プログラムの試作版を作成し、①単語学習ソフト（Android or iOS）、②CAN-DO 別フレーズ学習サイト、③音声・作文コーパス収集サイトを構築し、このプラットフォームを利用したタスク開発などへの基盤を作った。

2019 年度は、CEFR-J に基づくスピーキングタスク収集用の web インターフェースを設計し、自動音声認識（サインウェーブ社提供）を用いて、3 分程度の発話を録音してサーバーに保存するシステムを学内用に構築した。これを用いた CEFR-J スピーキングタスクのプログラム実施を引き続き検討した。また、スピーキングタスク用の語彙強化プログラムを開発し、再編成されたセッションにおいて開発したタスクとともに試行する準備を行った。

2020 年度は、CEFR レベルに基づいて開発されたスピーキングタスク用の語彙強化プログラムを実施した。また、再編成された ELC スピーキングセッションにおいて開発したスピーキングタスクを試行した。

2021 年度は、ELC のスピーキングテストを受験した学習者のスピーキングデータの書き起こしを継続して行い、CEFR 判定（人手による）と自動分析（CVLA, English Level Checker）との比較を行った。話し言葉の英文の CEFR レベル判定と、書き言葉の機械学習モデルとの間に大きな違いがあったため、改善点を探った。

(3) 学習支援における形成的評価の開発（第 3 班）

2018 年度は、ELC におけるスピーキングセッションを CEFR レベルを参照して位置づけ直し、レベルに応じたトピック開発及び必要とされる発話機能についての Can-Do リストの開発を行った。また、スピーキングセッションの参加者に毎回 Can-Do リストをもとに目標設定と自己評価を促し、形成的評価を促進する体制を整えた。さらに作成したウェブ上のスピーキング方略タスクについての活用に向けて検討を行った。

2019 年度は、形成的評価の原型を構築するために、英語学習支援センターで行っているスピーキングセッションを CEFR の記述子に準じてレベル調整し、適切なトピックの選択を行った。また、B1 と B2 のそれぞれのレベルに応じて、言語機能の使用に焦点をあてた形成的評価のための自己内省シートを開発した。2018 年度に試行を行った内省シートを継続的に利用し、言語機能の方略的使用の改善のための明示的なストラテジーセッションを実施した。

2020 年度は、スピーキングセッションにおいて形成的評価を試行した。

４．研究成果

（1）本研究の主な成果とその意義

①　個別試験のためのスピーキングテスト開発と実施について

本研究で開発された個別試験のためのスピーキングテスト（BCT-S）は、2019 年 2 月に東京外国語大学国際日本学部の入学試験に導入された。2021 年 2 月には言語文化学部・国際社会学部を合わせた 3 学部に広げて、入学試験に導入される予定であったが、コロナ禍の影響で 2022 年の導入に延期された。その結果、3 学部受験生のテストデータは、本科研期間中に収集することが叶わなかった。しかし BCT-S は、他大学の入学試験にも導入されるなど、日本の大学教育に寄与することができた。

BCT-S は、British Council との共同開発によって高い妥当を確保しつつも、日本の英語学習文脈を想定して作られており、さらに実施しやすい CBT 方式を採用しているなどの点において、国内で類がない。このようなスピーキングテストの開発は、入試改革と大学英語教育の改革に貢献するだけでなく、高等英語教育にも優れた波及効果が期待できるため、本研究の社会的意義は大きい。

②　スピーキング指導のためのスピーキングタスク開発および形成的評価について

CEFR に準拠したスピーキングタスクおよび形成的評価法を独自に開発し、自律学習支援のために活用した。このような取り組みは国内ではまだ少ない。とりわけ上級学習者用の C1 レベルを含むタスク開発や、Can-do リストを利用したスピーキング指導の一環としての形成的評価の手法は、これまで確立されておらず、タスクに特化したルーブリックの開発は前例がほとんどない。さらに、当初計画にはなかったが、スピーキング能力の基盤となる語彙強化のために、あらたに語彙習得プログラムを導入し、語彙レベルを踏まえたタスクの開発と、形成的評価のためのルーブリックの開発基盤を整えることができた。

③　スピーキング能力の育成基盤のシステム構築および可視化について

本科研によって、一貫した到達度指標に基づいた、入学から卒業までを見据えての外国語運用

能力の育成基盤はその大枠が構築された。こうした取り組みは、国内外においても前例が極めて少ない。とりわけ、CEFR-J は主に中学・高校で用いられ始めているものの、大学での応用はまだ少ない。また、本研究はスピーキング技能の指導と評価の一体化の在り方を検討していく上で、効果的な学習支援への取り組みに関する基礎資料も提供することができた。本科研によって得られた知見は、他言語の教育への応用も可能であり、外国語教育へ広く貢献することが期待できる。

（2）コロナ禍による研究への影響および残された課題

コロナ禍の影響で、スピーキングテスト BCT-S を 3 学部の入学試験に導入するのは 2022 年 2 月に延期された。このため、BCT-S の大規模な実施が本研究期間内にできず、大規模データに基づくテストの検証作業は課題として残された。また形成的評価の結果を可視化できる ELC 独自の e ポートフォリオシステムは導入には至らなかった。いっぽうで、語彙強化プログラムを開発・導入することで、スピーキングタスクの精緻化や、学習者のスピーキング能力の下支えとなる語彙力を伸ばし、CEFR に基づく語彙レベルのスピーキングタスクの開発と形成的評価の構築を進めることはできた。さらに研究期間の繰越年度には、スピーキングセッションの発話データを収集し、その分析に基づくタスクの整備・改善を進めることができた。

また ELC 独自の e ポートフォリオシステムの導入には至らなかったものの、スピーキング能力を含む 4 技能の総括的評価・診断的評価の結果については、大学教育再生加速プログラム（AP）テーマ V「学習成果の可視化と質保証」によって開発され、大学の教務システムに導入された e ポートフォリオ「たふれこ」に記録するとともに、そのまとめを学修活動履歴書として発行し、ディプロマ・サプリメントの形で可視化するに至った。

今後の研究においては、BCT-S の大規模実施とその検証作業、およびスピーキング能力に及ぼす語彙強化プログラムの効果検証を含めたスピーキングタスクのさらなる開発・検証・精緻化を進め、入学から卒業までを見据えての外国語運用能力の育成のための指導・評価システムの拡充を行いたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　10件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　10件）

１．著者名 Tono Yukio	４．巻 8
２．論文標題 Review of Fuchs, Robert and Valentin Werner. 2019. Tense and Aspect in Second Language Acquisition and Learner Corpus Research. Amsterdam: John Benjamins. ISBN: 978-9-027-20715-9. https://doi.org/10.1075/bct.108	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Research in Corpus Linguistics	６．最初と最後の頁 176-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32714/ricl.08.02.09	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Negishi Masashi	４．巻 20
２．論文標題 Lost in translation: Translatability of the CEFR-J based English tests	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ALTE Collated Papers for the ALTE 7th International Conference, Madrid	６．最初と最後の頁 29-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 根岸 雅史	４．巻 20
２．論文標題 新『観点別評価』はどう始まったか	５．発行年 2021年
３．雑誌名 語研ジャーナル	６．最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Negishi Masashi	４．巻 1
２．論文標題 The impact of the CEFR in Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Reflecting on the Common European Framework of Reference for Languages and its Companion Volume	６．最初と最後の頁 10-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yoshitomi Asako	4．巻 2021
2．論文標題 Developing an Assessment System of Speaking Skills in English as a Foreign Language Based on CEFR-J	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Impact	6．最初と最後の頁 56-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tono, Y.	4．巻 1
2．論文標題 Coming Full Circle: From CEFR to CEFR-J and Back	5．発行年 2019年
3．雑誌名 CEFR Journal	6．最初と最後の頁 5-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Zhou Y., Yoshitomi, A.	4．巻 9
2．論文標題 Test-taker perception of and test performance on computer-delivered speaking tests: the mediational role of test-taking motivation	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Language Testing in Asia	6．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s40468-019-0086-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Uchida, S. & Negishi, M.	4．巻 -
2．論文標題 Assigning CEFR-J levels to English texts based on textual features	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conferences (APCLC 2018)	6．最初と最後の頁 463-467
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 長沼君主、幡井理恵、森本レイト敦子、山川拓	4．巻 37
2．論文標題 小学校英語でのパフォーマンスを評価におけるCan-Do評価の用い方に関する一考察	5．発行年 2018年
3．雑誌名 JASTEC Journal	6．最初と最後の頁 187-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ishii, Y. & Tono, Y.	4．巻 -
2．論文標題 Investigating Japanese EFL learners' overuse/underuse of English grammar categories and their relevance to CEFR levels	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (Edited by Y. Tono & H. Isahara)	6．最初と最後の頁 160-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tono, Y.	4．巻 -
2．論文標題 Developing multilingual language learning resources using the CEFR-J	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (Edited by Y. Tono & H. Isahara)	6．最初と最後の頁 445-452
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 投野由紀夫	4．巻 124
2．論文標題 Can-Do活用と英語語彙指導を融合した発信技能育成の試み	5．発行年 2018年
3．雑誌名 福井県教育総合研究所『研究紀要』	6．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 投野由紀夫	4．巻 -
2．論文標題 Can-Doを日本の英語教育にどう活かすか	5．発行年 2018年
3．雑誌名 平成29年度私立学校特別研修会『外国語（英語）教育改革特別部会講演・実践事例集』	6．最初と最後の頁 69-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Zhou Yujia	4．巻 3
2．論文標題 Frequency of use and perceived usefulness of speaking strategies: A study of Japanese learners	5．発行年 2019年
3．雑誌名 LET (Language Education & Technology) Kanto Journal	6．最初と最後の頁 25-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉冨朝子	4．巻 21
2．論文標題 第二言語習得論を踏まえたスピーキング指導	5．発行年 2018年
3．雑誌名 外国語教育学研究	6．最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計39件（うち招待講演　16件／うち国際学会　19件）

1．発表者名 Wang Wei-Tung & Tono Yukio
2．発表標題 Performance Evaluation of Automated CEFR Level Classification Tools
3．学会等名 JAECS 2020（国際学会）
4．発表年 2020年

１．発表者名 Negishi Masashi
２．発表標題 What's done and what's not done? The use of the CEFR in Japan
３．学会等名 JALT Symposium & Workshop: The praxis of teaching, learning, and assessment with CEFR and CLIL (online)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 O'Sullivan Barry, Negishi Masashi, Malone Meg
２．発表標題 The CEFR: Learning, teaching, assessment in Europe and beyond
３．学会等名 The CEFR: A road map for future research and development
４．発表年 2020年

１．発表者名 吉冨 朝子、王 ウェイトン
２．発表標題 4技能5領域の英語力強化を目指して：CEFR-Jに準拠したスピーキング能力育成・評価システムの構築
３．学会等名 New Education Expo（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 吉冨 朝子、王 ウェイトン
２．発表標題 TOEIC L&R IPテスト（オンライン）活用法と実施報告
３．学会等名 TOEIC IIBCセミナー（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Zhou Yujia, O'Sullivan Barry, Negishi Masashi, Yoshitomi Asako
２．発表標題 Exploring the effectiveness of planning time in a computer-delivered speaking test.
３．学会等名 24th JLTA Annual Conference (online)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Zhou Yujia, Motteram Johanna, Sudheendra S., Yasuda Chie
２．発表標題 Tablet-delivered speaking tests for Japan's university entrance exams
３．学会等名 The 9th British Council New Directions in English Language Assessment Conference（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Motteram Johanna, Zhou Yujia, Negishi Masashi
２．発表標題 Linking a computer-based text of speaking to the CEFR-J: Looking for evidence of can-dos
３．学会等名 The JACET 60th Commemorative International Convention（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Negishi Masashi
２．発表標題 Teaching and Learning Japanese experience with the CEFR
３．学会等名 85th BritishCounciel Seminar to Share Best Practice in Utilizing Assessment Tools to Support English Language (online)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 吉冨 朝子
２．発表標題 第二言語習得理論を踏まえた英語スピーキング指導と評価
３．学会等名 JACET-SLA研究会2021年度第2回公開講演会（オンライン）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Tono Yukio
２．発表標題 CEFR-informed pedagogical lexicography: What and how
３．学会等名 7th International Symposium on Pedagogical Lexicography and L2 Teaching and Learning（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Tono Yukio
２．発表標題 CEFR-J Project: Its impact on foreign language teaching in Japan
３．学会等名 30th International Symposium on English Language Teaching & Learning in Celebration of ETS-ROC's 30th Anniversary & PAC/The 23rd International Conference and Workshop on TEFL & Applied Linguistics（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Tono Yukio
２．発表標題 Useful text analysis tools for teachers
３．学会等名 30th International Symposium on English Language Teaching & Learning in Celebration of ETS-ROC's 30th Anniversary & PAC/The 23rd International Conference and Workshop on TEFL & Applied Linguistics（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 吉冨 朝子
２．発表標題 日本の英語教育への語用論指導導入に向けて
３．学会等名 JACET-SLA研究会2021年度第4回公開講演会（オンライン）（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Tono, Y.
２．発表標題 The CEFR-J Project: Contextualising the CEFR in ELT in Japan
３．学会等名 British Council "New Directions Conference," Standard and Grameworks Symposium（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 投野由紀夫
２．発表標題 コーパス言語学とCEFR研究
３．学会等名 北海道英語教育学会20周年記念大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tono, Y.
２．発表標題 Developing the L2 Index of Grammar Development and Use: Variability issues revisited
３．学会等名 ESRC-AHRC UK-Japan SSH Connection Grants Seminar, Kobe University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 周育佳、金子麻子、長沼君主
２．発表標題 大学における英語学習支援プログラムのスピーキング活動にCEFRを組み入れる試み
３．学会等名 第12回JACET 関東支部大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 金子麻子、長沼君主、Poland, Dean
２．発表標題 CEFRコミュニケーション・ストラテジーの明示的指導の効果：授業外の英会話セッションへの導入の試み
３．学会等名 関東甲信越英語教育学会第43回神奈川研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 金子麻子
２．発表標題 東京外国語大学・英語学習支援センターにおけるCEFRに基づくスピーキング・セッション
３．学会等名 東京外国語大学一般公開ワークショップ「高校・大学・産学連携の英語スピーキング教育」
４．発表年 2019年

１．発表者名 Zhou, Y., Negishi, M., Yoshitomi, A.
２．発表標題 High school students' perceptions of a computer-based speaking test for Japanese university admission
３．学会等名 The 2nd Japan Association for Applied Linguistics (JAAL) Conference in JACET
４．発表年 2019年

１．発表者名 Zhou, Y., Dunlea, J., Negishi, M., O'Sullivan, B., Yoshitomi, A.
２．発表標題 Gathering a posteriori validity evidence of a computer-based speaking test for Japanese university admission
３．学会等名 The 22nd Japanese Language Testing Association Annual Conference
４．発表年 2019年

１．発表者名 Zhou, Y., Rutherford, K., Fairbaim, J., Dunlea, J., Negishi, M., O'Sullivan, B.
２．発表標題 Language assessment transition in a Japanese university
３．学会等名 The 7th British Council New Directions in English Language Assessment Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Uchida, S., Negishi, M.
２．発表標題 Assigning CEFR and CEFR-J levels to Lexile measures: A corpus-based approach
３．学会等名 New Directions English Language Assessment Conference
４．発表年 2019年

１．発表者名 Zhou Yujia
２．発表標題 Effectiveness of using self-checklist to facilitate developing interactive skill in classroom
３．学会等名 The 2018 LET Kanto Chapter Autumn Conference
４．発表年 2018年

１．発表者名 Negishi, M., Kudo, Y., Okabe, Y., Kashimada, Y., Hama, M., UUmakoshi, Y.
２．発表標題 Linking the Global Test of English Communication (GTEC) to CEFR levels
３．学会等名 LTRC 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Zhou, Y., Dunlea, J., Negishi, M., Yoshitomi, A.
２．発表標題 Collecting a priori validity evidence during the development of a computer-based speaking test for Japanese university admission purposes
３．学会等名 第1回 JAAL in JACET 学術交流集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Uchida, S. & Negishi, M.
２．発表標題 Assigning CEFR-J levels to English texts based on textual features
３．学会等名 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC 2018)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 根岸雅史、岡部康子、鹿島田優子
２．発表標題 GTECスコアとCEFR関連付け調査－A1/PreA1レベル
３．学会等名 全国英語教育学会京都研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉田研作、田中茂範、根岸雅史、アレン玉井光江、金森強
２．発表標題 新教育課程に向けて－よりよい指導を考える－
３．学会等名 上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム：コミュニケーション活動につながるプラクティスと教師の働きかけとは
４．発表年 2018年

１．発表者名 根岸雅史、酒井英樹
２．発表標題 「英語学習に関する継続調査」から考える指導のあり方
３．学会等名 上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム：コミュニケーション活動につながるプラクティスと教師の働きかけとは
４．発表年 2018年

１．発表者名 根岸雅史
２．発表標題 CEFR-Jのテスト・タスク開発概観
３．学会等名 CEFR-J 2019 in 京都
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tono, Y.
２．発表標題 CEFR-based grading and sequencing of phrasal verbs and its implications for pedagogical lexicography
３．学会等名 Asia Association for Lexicography, Krabi（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tono, Y.
２．発表標題 CEFR-Jx27: Developing corpus- and CEFR-based pedagogical resources and e-learning systems for 27 languages
３．学会等名 Teaching and Language Corpora, Cambridge（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tono, Y.
２．発表標題 L2 learner profiling research and its application for multilingual pedagogical resource development
３．学会等名 International Conference on Asia Language Processing, Indonesia（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tono, Y.
２．発表標題 The development of the CEFR-J and its applications in language assessment
３．学会等名 Assessment of Second/Foreign Language Proficiency 2018 Fall International Conference, Seoul National University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tono, Y.
２．発表標題 Corpus approaches to L2 learner profiling research
３．学会等名 English Teacher's Association (ETA)-ROC, Taipei（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉冨朝子
２．発表標題 第二言語習得論を踏まえたスピーキング指導
３．学会等名 外国語教育学会シンポジウム「外国語教育におけるスピーキング指導」基調講演（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉冨朝子
２．発表標題 英語スピーキング学習はどうするべきか：第二言語習得理論を踏まえた提案
３．学会等名 昭和女子大学特殊研究講座（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計10件

１．著者名 投野由紀夫、根岸雅史	４．発行年 2020年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 264
３．書名 教材・テスト作成のためのCEFR-Jリソースブック	

１．著者名 Tono Yukio	４．発行年 2021年
２．出版社 Crane Publishing	５．総ページ数 15
３．書名 Evaluation collocations dictionaries: Focus on collocations selection criteria. In Leung, Y.N. (ed.) Reflections on the English Language Teaching and Learning in the Global and Diversified World (pp. 806-820)	

1．著者名 堀正広、赤野一郎（編）投野由紀夫（分担執筆）	4．発行年 2019年
2．出版社 ひつじ書房	5．総ページ数 280（pp. 49-59）
3．書名 英語コーパス研究シリーズ	

1．著者名 投野由紀夫	4．発行年 2018年
2．出版社 Crane Publishing Co. Ltd.	5．総ページ数 604
3．書名 Corpus approaches to L2 learner profiling research（分担執筆）In Leung, Y. N., Katchen, J., Hwang, S. & Chen, Y. (eds.) Reconceptualizing English Language Teaching and Learning in the 21st Century: A Special Monograph in Memory of Professor Kai-Chong Cheung, pp. 392-409	

1．著者名 野村恵造（編集主幹）、吉冨朝子、他多数	4．発行年 2018年
2．出版社 旺文社	5．総ページ数 2080
3．書名 コアレックス英和辞典 第3版附属音声サイト：機能別会話・場面別会話執筆担当（36頁） https.//www.obunsha.co.jp/service/corelex3/	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	投野　由紀夫 (TONO YUKIO) (10211393)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	根岸　雅史 (NEGISHI MASASHI) (50189362)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	周　育佳 (ZHOU YUJIA) (40771944)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・講師 (12603)	
研究分担者	王　ウェイトン (WANG WEITANG) (80867862)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・特定教員 (12603)	2020年度・2021年度担当
研究分担者	長沼　君主 (NAGANUMA NAOYUKI) (20365836)	東海大学・国際教育センター・教授 (32644)	
研究分担者	金子　麻子 (KANEKO ASAKO) (10814858)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・その他 (12603)	2018年度・2019年度担当

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関